

第104回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成19年4月13日(金) 13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟 中会議室3

出席者：委員長 小豆澤（神戸大）

副委員長 北野（JR東海）

委員 岩松（鉄道総研），海老原（東横女短大），大崎（東京大），荻田（JST），
村本（東洋電機製造），渡辺（FDK），矢野（産総研），森下（東芝），
平田（大阪大）

幹事 水野（信州大），村井（JR東海）

幹事補佐 鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 104-1 第103回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 104-2 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 104-3 第84回産業応用部門研究調査運営委員会報告（小豆澤委員長）
- 104-4 第5回産業用リニアドライブ国際シンポジウム(LDIA2005 Kobe-Awaji)報告書（小豆澤委員長）
- 104-5 6月リニアドライブ研究会プログラム案（村井幹事）
- 104-6 交通・電気鉄道／リニアドライブ合同研究会（北野副委員長）
- 104-7 リニアドライブ技術委員会傘下の各委員会が行ったシンポジウム一覧（鳥居幹事補佐）
- 104-8 委員会構成員変更(2007年2月～2007年4月)（小豆澤委員長）
- 104-9 D部門技術報告の発行・売上状況表（小豆澤委員長）
- 104-10 平成19・20年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 104-11 LD技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（案）（村井幹事）
- 104-12 平成18年度リニアドライブ技術委員会活動報告（確定版）（小豆澤委員長）
- 104-13 平成19年度リニアドライブ技術委員会活動計画（小豆澤委員長）
- 104-14 国際シンポジウム(LDIA2007)共催のお願い（小豆澤委員長）
- 104-15 リニアドライブ技術委員会の将来について（小豆澤委員長）
- 104-16 磁気支持応用機器の高機能化協同研究委員会活動方針及び報告書（村井幹事）
- 104-17 新世代の電気・磁気アクチュエータ調査専門委員会活動方針及び報告書（平田委員）
- 104-18 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会活動方針及び報告書（平田委員）
- 104-19 産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会（MEL）活動報告（鳥居幹事補佐）
- 104-20 磁気支持応用における電気・機械システム融合化技術調査専門委員会（MLV）活動報告（森下委員）
- 104-21 新世代の電気・磁気アクチュエータ調査専門委員会（NAD）活動報告（平田委員）
- 104-22 多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 104-23 第6回多自由度モータのシステム化技術調査専門委員会議事録（矢野委員）
- 104-24 第11回産業用リニア電磁駆動システムの要素技術調査専門委員会議事録（鳥居幹事補佐）
- 104-25 第2回新世代の電気・磁気アクチュエータ調査専門委員会議事録（平田委員）

議事

1 議事録確認

資料104-1を用いて議事録の確認を行い、2.6(4)「MLV委員」を「MLV委」に、2.6(5)「3/712/8,1/26」を「3/7」に、3.4「selected paper を掲載し」を「発表論文を投稿可能とし」に、それぞれ修正の後、承認された。

2. 報告事項

2.1 資料104-2を用いて、委員会名簿の確認が行われた。

2.2 資料104-3を用いて、北野副委員長より、3/6に開催された第84回D部門研究調査運営委の報告があった。優秀論文発表賞は、LD関連は本部1+部門3で決定したこと、半導体電力変換技委長が交代したこと、MEL, ECD委の解散・設置が承認されたこと等が報告された。さらに、感謝状の手法方法を詰めるとの報告があった。

2.3 資料104-4を用いて、小豆澤委員長より、LDIA2005の報告書についての説明があった。関連して、

LDIA2007の現状について、申し込み108件のうち日本は28件と見られるとの報告があった。

- 2.4 資料104-5を用いて、村井幹事より、神戸で開催される6月LD研究会のプログラム案の説明があった。18件の申し込みがあり、6/14午後と6/15午前で割り振り、6/14に懇親会を実施予定である。関連して、小豆澤委員長より、7/6に予定されている次回LD技委を6/14午前または6/15午後に変更したいとの提案があり、6/15午後を開催することを決定した。詳細な時間等は後日連絡することとした。
- 2.5 資料104-6を用いて、北野副委員長より、長岡で開催される7月LD研究会について、発表申し込みと参加の呼びかけがあった。恒例の見学は、小千谷の発電所の予定である。
- 2.6 資料104-7を用いて、鳥居幹事補佐より、LD技委関連の、全国大会及び部門大会シンポジウムの開催経緯の紹介があった。8月の部門大会について、ECD委が提案することを確認することとした。
- 2.7 資料104-8を用いて、小豆澤委員長より、LD傘下の委員会構成員変更の状況が示された。
- 2.8 資料104-9を用いて、小豆澤委員長より、D部門技術報告の発行・売上状況の報告があった。MDD委の報告が黒字であり、あとは若干赤字である。2年間は部門管理で、それ以降は本部管理となるとの追加説明があった。
- 2.9 資料104-10を用いて、H19・20年度予定の確認が行われた。
 - (1) LD技委：7/6(東京)の予定を6/15(神戸)に変更。
 - (2) LD研究会：10月は山梨は困難であるため、地方で独自開催を検討する。12月は宮古島の予定。
 - (3) 関連会合：2008.6/18-20 SPEEDAM2008(Ischia, Italy)を追加。
その後の予定として、2008.12/15- MAGLEV2008(San Diego, USA)があるとの指摘があった。
- 2.10 資料104-11を用いて、資料提出スケジュールについての確認が行われた。部門大会、全国大会のシンポジウム提案を加えるべきであるとの指摘があり、対応することとした。H19部門大会はECD委、H20全国大会はMLV委、H20部門大会はMDD委を、それぞれ提案担当予定とした。
- 2.11 資料104-12を用いて、小豆澤委員長より、活動報告確定版の紹介があった。
- 2.12 資料104-14を用いて、小豆澤委員長より、LDIA共催の提案が承認されたとの報告があった。実行委員長のProf. Brochetにも連絡済みである。
- 2.13 資料104-16,17,18を用いて、各委員長より、傘下各委員会のH18年度の活動報告の紹介があった。MEL委とMLV委についても、同様に口頭での紹介があった。小豆澤委員長より、改めて学会本部への提出の依頼があった。

3. 審議事項

- 3.1 資料104-13を用いて、小豆澤委員長より、H19年度LD技委活動予定の紹介があった。また、資料104-15を用いて、活動の将来像についての紹介があり、技術委員会の活動全般に関するフリーディスカッションが行われた。2009年電磁力シンポの開催についての議論があり、長野で行うことが提案され、候補として水野幹事を中心に検討してみることにした。2010年MAGLEVを日本で開催する可能性があるとの指摘があった。LDIAの開催地については、2009年は韓国慶州で決定であり、日程も決まっている。2011年はEU/USAで大丈夫かとの指摘があり、候補としてドイツ・イタリア・スイスがあるとの回答があった。研究会発表の増加策について、以下の意見があった。webだけのアナウンスでは不十分であり、push型の配信はできないのか。他学会との共催を模索するなど、新たな分野を開拓するべき。メーカーの興味の対象となるアクティビティが必要である。メーカーから見て、発表のしきいが高いので、メーカーのカタログ+ α のような製品紹介を取り入れていくべきである。先生方の報告も昔はあった。アクティビティが高い先生の後継者が育っていない。回転機と異なり、リニアは応用性が広がっていないところが問題ではないか。アクチュエータ・メカトロ、といった手の広げ方は必要である。また、脱皮のために、技委の名称変更も視野に入れてもいいのではないかと、学会全体の運営の方針として、他学会のような勉強の場を提供する方向性が必要であるとの意見があった。

4 各調査専門委員会活動報告

資料104-19～104-25を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

以上